

# 旧財団法人の事業報告

自 平成23年4月1日 至 平成24年1月31日

## I. 展覧会

### 1. 第39回「日本の書展」直轄展

平成23年3月11日、東日本を未曾有の大震災が襲い、更には福島原発の事故を引き起こす大惨事となりました。災害は、東北地方をはじめ各地に過去に例を見ない大変大きな傷跡を残し、現在復興に向けて進んでいると言われる一方で、今なお厳しい状況下で生活する人々が多数おられるのが現状です。東京展出品者の中にも被災された方が数十名おられますが、被災された方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い完全な復興をお祈りしたいと存じます。

大震災の影響で、日本全体が大きな悲しみに沈んでいる時ではありましたが、第39回「日本の書展」は通常通り開催いたしました。作品集冒頭にも掲げました通り、日本文化の大きな一翼を担う“書”を途切れることなく継承し、発展させていくのが、我々の責務であり、役割だと確信したからです。ただ自粛相次ぐ世情を配慮し、直轄4展すべての開催披露レセプションは中止とし、その予算の中から日本赤十字社に義援金1千万円を寄付させていただきました。また、被災された出品者の方々には見舞金をお送りいたしました。

直轄4展の入場者数ですが、残念ながら全展とも減少しました。披露レセプションがなくなったことが大きな要因だと捉えております。

今年第40回展は節目の年であり、国立新美術館では公募臨書の部が新設されます。

引き続き役員をはじめ書家の先生方のご理解ご協力を賜りながら、気持ち新たに展覧会の向上に努めてまいります。

#### (1) 関西展

会 期 平成23年5月19日（木）～5月22日（日）

会 場 大阪国際会議場（3階イベントホール）

主 催 （財）全国書美術振興会 産経新聞大阪本社

後 援 文化庁

協 賛 （公社）日本書芸院

関西展の出品数は、巨匠15点、代表76点、委嘱34点、招待369点、秀拔選748点、合計1,242点、会期中の入場者数は4,244名だった（38回展の入場者数は5,115名）。

産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛を得ている。

## (2)中部展

### 第1会場

会 期 平成23年5月31日（火）～6月5日（日）

会 場 愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）

### 第2会場

会 期 平成23年5月31日（火）～6月5日（日）

会 場 名古屋市博物館（3階ギャラリー）

主 催 （財）全国書美術振興会 中日新聞社

後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市 各県市教育委員会  
東海テレビ放送

協 賛 （社）中部日本書道会

中部展の出品数は、巨匠15点、代表76点、委嘱12点、招待150点、秀拔選622点、合計875点、会期中の入場者数は2会場合わせて4,911名だった。（38回展の入場者数は6,816名）。

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。

## (3)東京展

会 期 平成23年6月9日（木）～6月19日（日） 14日（火）は休館日

会 場 国立新美術館

主 催 （財）全国書美術振興会 （株）共同通信社

後 援 文化庁

東京展の出品数は、巨匠15点、代表76点、委嘱33点、招待541点、秀拔選937点、東京展合計1,602点、他展の委嘱（関西展委嘱34点・中部展委嘱12点・九州展委嘱10点）も加わり、総展示数1,658点で当会としては最大の展示数。

会期中の入場者数は11,617名だった（38回展の入場者数は12,793名）。

## (4)九州展

会 期 平成23年7月14日（木）～7月19日（火）

会 場 福岡アジア美術館

主 催 （財）全国書美術振興会 西日本新聞社

後 援 文化庁

九州展の出品数は、巨匠15点、代表76点、委嘱10点、招待124点、秀拔選258点、合計483点、会期中の入場者数は2,206名だった（38回展の入場者数は2,943名）。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

37回展まで福岡県立美術館を使用し、展示可能数も350点前後であったが、38回展は福岡市美術館を借用することができ、500点を上回る作品を一堂に展示することができた。しかし、福岡市美術館は老朽化に伴い、数年中には建て替えに入るとの話も聞かれ、また、直轄の東京展終了後から地方巡回展が始まる間の7月上旬から中旬の時期に、九州展の会場として定着して借用できないなどの難しい点もあったことから、今回から博多区川端の福岡アジア美術館を借用して、今後の九州展会場として定着したいと考えている。

全展共通の試みとして、入場者数や客層を広げるため、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにして来場記念品として1枚ずつ贈呈しており、39回展も行った。

合計贈呈枚数は13,745枚。

直轄4展総入場者数22,978名に対して約60%の贈呈率。

## 2. 第39回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の91点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方10カ所を巡回している。現在9番目の長野展まで終了。

第39回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	23.7.8~7.11	199	1,397
2	島根 松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	23.8.18~8.22	300	1,578
3	栃木 宇都宮市	下野新聞社	福田屋ショッピングモール宇都宮インターパーク店	23.8.31~9.5	312	4,141
4	青森 青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	23.9.8~9.12	253	863
5	広島 広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店	23.9.29~10.4	696	25,157
6	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店6階葦川会館	23.10.19~10.24	567	4,666
7	山梨 南巨摩郡身延町	山梨日日新聞社(後援)	身延町なかとみ現代工芸美術館	23.12.9~24.1.15	29	1,726
8	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	24.2.8~2.12	253	3,263
9	長野 長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	24.3.9~3.12	238	1,469
10	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	24.4.11~4.16	<294>	<1,858>

※茨城展の<>内の数字は37回展の実績

38回展は東日本大震災の影響で中止となった。

## 3. 第40回「日本の書展」東京展 公募臨書

今年から東京展に「公募臨書」の部が新設され、平成24年6月14日(木)~6月24日(日)、国立新美術館で開催される第40回「日本の書展」東京展と同時開催される。その審査鑑別が以下の日程で行われた。

審査会、出品状況および審査結果については以下の通り。

審査日 平成24年1月31日(火)

会場 国立新美術館バックヤード 審査室A1・A2

審査委員 (平成23年4月1日現在)

津金孝邦理事長 新井光風常務理事 大井錦亭常務理事 東山一郎常務理事  
岡田契雪理事 貞政少登理事 清水透石理事 鈴木春朝理事 高木聖雨理事  
田中節山理事 星 弘道理事 内藤富卿評議員

<審査結果>

出品総数		934		
入選数	内訳	漢字	仮名	篆刻
		284	173	16
	計	473		

## Ⅱ. 書美術功労者の顕彰

文化功労者となられた日比野光鳳名誉顧問、並びに、日本芸術院賞を受賞された黒田賢一常務理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上